

教研の思い出

(教育・平成 15 年卒・瀬戸内市立裳掛小学校) 畑 (田井) 菜摘子

私が所属していた教研は普段からとても和気あいあいとしていて、先輩や後輩とも気軽に話をすることができる雰囲気の本当に心地のよい研究室だった。教研で過ごした思い出はたくさんあるが、その中でも特に思い出深いのは、毎年夏に行われる合宿と毎週のゼミの時間だ。

2 回生の時に初めて直島に合宿に行った時は、まだ研究室に所属して 4 ヶ月。行く前はどのような合宿になるのか少し不安だった。しかしこの合宿をきっかけに、同級生や先輩との距離が一気に近づいたように思う。夜の海にみんなで入ってわいわいしたこと、夜中から朝方までお互いのことを知ろうと語り明かしたことなど、直島のテント村で仲間達と過ごした懐かしい思い出が次々と蘇ってくる。昼間は研究室の合宿らしく学習の時間もあったが、なぜか全く記憶がないのが不思議だが……。また夜の海に入った時、先生方が一緒に海に入り、「おーい、これ以上先には行かないように〜。」と呆れながらも見守ってくれたことも印象に残っている。

そしてもうひとつは、3 回生から所属したゼミでのことだ。毎週それぞれ自分の体験や考えに基づきながら、教育現場の様々な問題について話し合いをした。ゼミの先生は私たちの話し合いに耳を傾け、時に厳しい言葉を言いながらもユーモアを交えながら指導を下さった。私の代は私を含め 4 人のゼミ生がいたが、私は自分の考えを飾ることなく思い思いに話すこのゼミの時間がとても好きだった。一度、先生からお互いについて手紙を書き合うという提案をされた。大学生になってそのような手紙を書くことももらうこともなかったもので、初めは少し照れくさかったが、相手のことを思いながら書いた手紙、自分のことを思って書いてくれた手紙が今となっては私の宝物になっている。自分のよいところやがんばりを認めてもらえ、伝えてもらえることがこんなにもありがたく、うれしいことなのだと改めて感じた。そして今でもこの手紙を見ると、当時のことを思い出し、あたたかい気持ちになる。

大学を卒業して 10 年目になる今年の 7 月、ゼミの仲間の一人の結婚式がある。お祝いのメッセージをもらおうと教研の仲間と連絡をとると、それぞれが仕事や育児に奮闘しているという話を聞く。仲間達の話はとても刺激になり、自分もがんばろうという気持ちにさせてくれる。教研で過ごした日々、教研の仲間達は私の大学時代の財産だ。これからもお互い切磋琢磨しながら成長していく仲間でありたいと思う。

この度、仕事や育児で時間に追われ毎日があっという間に過ぎていく中で、大学時代のことを振り返り、気持ちを新たにすることができました。最後になりましたが、今回このような執筆の機会を与えて下さったことに感謝します。ありがとうございました。